

多忙・遠慮で潜在か

避難所「予防的回診を」

1分の4の平時訴え不眠症

独立行政法人「労働者健康福祉機構」(川崎市)が09年4～6月、べた際、不眠症患者は

東日本大震災の避難所で過ごす就労年代の被災者を診察した医師らが、不眠症患者の数をまとめたところ、一般の健康診断時の4分の1前後という結果が相次いで出た。医師らは、極度の緊張を強いられる避難所生活にしては低すぎる数値で、復旧作業に追われ診察を受ける余裕がないことや「遠慮」が主因と分析。医師自らが進んでケアに当たる「予防的回診」が大切だと訴えている。【矢島弓枝】

同機構が被災者に理由を尋ねると、不眠が続いても「受診する時間がない」などの回答が多く、「避難所で眠れないのは仕方ない。医者への相談は気がひけると話した人もいた。」

同機構が被災者に理由を尋ねると、不眠が続いても「受診する時間がない」などの回答が多く、「避難所で眠れないのは仕方ない。医者への相談は気がひけると話した人もいた。」

同機構が被災者に理由を尋ねると、不眠が続いても「受診する時間がない」などの回答が多く、「避難所で眠れないのは仕方ない。医者への相談は気がひけると話した人もいた。」

同機構が被災者に理由を尋ねると、不眠が続いても「受診する時間がない」などの回答が多く、「避難所で眠れないのは仕方ない。医者への相談は気がひけると話した人もいた。」

同機構が被災者に理由を尋ねると、不眠が続いても「受診する時間がない」などの回答が多く、「避難所で眠れないのは仕方ない。医者への相談は気がひけると話した人もいた。」